片岡市長　インタビュー概要

全国屈指の福祉先駆都市へ

福祉先駆都市とは、弱い立場にある方々のために、全力を尽くすということです。子どもからお年寄りまで、切れ目のない、全国でも最高レベルの優しさといたわりを提供したいと思います。国のメニューによって行っている仕事以外を市町村はなかなかできません。しかし、既存のメニューになくても必要だと感じれば、総社市は行っていきます。このようなことが全国屈指だということです。

一人暮らしの高齢者への支援

これからやろうとしている、一人暮らしの高齢者のネットワーク化については、国・県や民生委員、包括支援センターが行うのが定番通りです。しかし国で決められたルールのなかに、該当しない人がたくさんいます。そのような人を見過ごしていると思います。国や県などがやらないことを市が中心となってやっていきます。早急に会議を開催し、検討を始めます。

要支援１・２のジャッジが始まりますが、それに合わせて、施設に入れない高齢者をどうやって支援していくかという検討も始めていきます。そこで問題になってくるのが衣食住の欠落です。これは人には言えない部分があると思います。経済的理由や肉体的な理由、家庭内の問題などで、施設に入れず困っている人がおられます。そこをやんわりと包括していけるような仕組みを作ることが必要です。ここで一番キーワードになってくるのが、孤独・貧困からの脱却です。孤独からの脱却というのは特に難しいと思いますが、責任をもち、取り組んでいきます。

発達障がい児への支援

これまで障がい者千人雇用という独自の政策を行ってきました。これからは、発達障がいの子どもに対する政策も始めます。幼児期からの義務教育課程のなかで、社会性が養える総社流の仕組みを築いていきます。

待機児童解消

３年以内に待機児童を０人にします。待機児童というのは雇用や企業誘致、男女共同参画など、さまざまな問題と重なり合っています。預かり保育や小規模保育などのツールを使い、スピード感をもって取り組んでいきます。働きやすい総社市を目指します。

雇用

新たな雇用を総社市内に定住化させていく定住特区などのソフト政策をさらに充実させ、また農地の用途変更などは県に粘り強く求めていきます。

救急医療体制

救急医療体制については、倉敷中央病院、倉敷平成病院、川崎医科大学附属病院に重篤患者や３次救急を委ねる協定を締結しています。今後、回復期や２次救急を総社で整備していくことは重要な課題です。民間病院と協力しながら、行政が助成していく仕組みをつくっていきます。

総社市流の「まち・ひと・しごと」

国で「まち・ひと・しごと」、地方創生を行っています。これから目指すのは、総社市内１５小学校区の「まち・ひと・しごと」です。自由枠交付金をうまく使いながら、それにそれぞれの学区に合った伸ばし方、独自色を、上乗せしていく新たな仕組みづくりを行っていきます。むやみに総社をまとめ上げようということではない政治をやっていきたいと思います。自由枠交付金を始めたからには、それぞれの地域の夢を伸ばしていくことを行っていきます。清音は清流祭りがあり、山手は十日町と交流し、新しいベットタウンになっています。なぜかと言うと、過去に役場があり昔から独自性があったからです。他の地域は、大きいくくりの総社市とでしか考えられていないのが現状だと思います。だから郷土愛が薄れていくのだと思います。しかし、もう一度それぞれの地域の独自性を高めていくとこがとても大切ことです。

昔一番賑わっていた商店街通りの南北が現在空家だらけです。しかしそこは黄金の市街化区域です。調整区域を市街化編入するより簡単な話です。建蔽率や容積率など、住宅が建ちにくい数字を緩和して、開発業者が容易に開発できるような特区にしていくなど、さまざまな検討が必要です。それぞれの絵を細かく描いていき、それを総合計画に盛り込んで、組み立て直し、それぞれの地域にふるさと創生をしていきます。その課題が見え始めたのは自由枠交付金をスタートさせたからです。自由枠交付金は今が過渡期だと思います。今は、各地域のリーダーの資質によるような使い方ですが、これをある程度制度化させていきます。今が投げかけていくタイミングです。それぞれの地域の独自色を高めていかなくては、地域への愛着がなくなると思います。行政のくくりを細かくする必要があります。

そして市民力を上げることが求められています。西郡や常盤、北溝手など、他所からきた人たちが町内会に参加しないのは、魅力のない町になっているためではないかと思います。そこをどうやって融合させていくか、市として考えていかなくてはならないと考えています。

雪舟くん

今一度、エリアルートや台数などがこれでいいのかなどを考え直す時期に来ていると思います。なぜなら、同じ人が同じ時間に同じ便にしか乗らなくなってきているからです。新たなお客さまがなくなってきています。子ども・若者・観光客は乗っておられません。限られた人の足としては、成功していると思いますが、それをさらに広めていきます。みんなが乗っていただける仕組みをもうひとつ考え直す必要があります。

農業改革

地食べ公社が利益を得て、黒字になっている現状を踏まえ、これから６次産業化に向けた試みを検討していきます。例えば、現在の給食における地元率が約４０％ですが、これを全国一位の６０％にしていこうとしたときに何が必要なのか。これは、野菜の裁断と保冷庫です。そこまで踏み込んだ話を今後検討するべきです。そしてさらに買える野菜を増やしていきます。

市民へのメッセージ

これからも多くの方々の意見に耳を傾け、謙虚な姿勢で市政運営をやっていきたいと思っていますので、いろんなご意見をお聞かせください。「希望」という言葉を４年間のキーワードにしたいと思います。悩んでいる人、悲しんでいる人、辛い思いをしている人。このような方々も希望もてる総社市にしていきたいと考えています。